

文化財ニュース いわき

第 76 号

平成 27 年 02 月 17 日

(公財)いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

泉第三土地区画整理事業 埋蔵文化財発掘調査

いずみまちえー いせき
—泉町A遺跡—

【現地説明会 平成27年2月21日(土) 10時~12時】

泉町A遺跡は、JR常磐線泉駅から南東約1kmの泉町滝尻字泉町・御前田地内に位置し、藤原川と釜戸川に挟まれた海岸砂丘(浜堤)の上に立地しています。現在は旧国道6号の西側で発掘調査がおこなわれています。これまでの土地区画整理事業に伴う発掘調査によって、この浜堤上には古墳時代から平安時代まで大規模な集落が営まれたことがわかっています。

泉町A遺跡の今回の調査区では、主に古代や近世の遺構と遺物が見つかっています。遺構は調査区北東側に集中し、掘立柱建物の柱穴や溝跡が多数重なっていました。また、東西方向に走る溝跡から古代の土師器や須恵器がたくさん見つかりました。



土地区画整理事業で発掘調査した遺跡 (●は泉町A遺跡)

とじておきましょう。



手捏土器が出土した様子（泉町A遺跡）

いづみまちえーいせき 泉町A遺跡

泉町A遺跡は、これまで3回の発掘調査がおこなわれ、弥生時代から近世までの遺物が見つかっています。遺物の多くは、遺跡内に見られる湿地跡から出土しています。今回の調査区の南側と東端でもこの湿地跡が見つかりました。

これまでの調査では、この湿地跡からは古代の「手捏土器」がまとまって出土しています。手捏土器は祭りに使われた祭祀用の土器といわれています。



竪穴住居跡（御前田A遺跡）

ごぜんだえーいせき 御前田A遺跡

御前田A遺跡は、泉町A遺跡の北東に隣接しています。3回の発掘調査や試掘調査がおこなわれ、古墳時代から近代の遺構と遺物が見つかっています。

遺跡の南端には泉町A遺跡で確認された湿地や堀跡が見られ、これより北側に古墳時代から平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物の柱穴が確認されています。この集落は、さらに北側にある泉町C遺跡、神力前B遺跡、折返A遺跡、菅俣B遺跡といった古墳時代～平安時代の大規模な集落から続いていると考えられます。



円形の土坑と溝跡（御前田A遺跡）

また、遺跡からは円形の土坑と溝跡が数多く見つかっています。これらは出土遺物と遺構の重なりから近世以降のものと考えられます。

とじておきましょう。

御前田B遺跡

御前田B遺跡は、泉町A遺跡の南、御前田A遺跡の南西に隣接します。3回の発掘調査がおこなわれ、古墳時代から近世までの遺構と遺物が見つっています。

遺跡の北側は、泉町A遺跡・御前田A遺跡にも見られた湿地が広がり、この南側に掘立柱建物跡や井戸跡、多数の溝跡が見つかりました。

掘立柱建物跡は、溝跡より古い時代の建物と考えられます。また、柱穴の一部には柱材や礎板そばんが残っているものもありました。

井戸跡は、遺跡の北側で見つかりました。四隅に柱を立て、横板と縦板で井戸枠いどわくが組まれたものです。井戸の中からは、木製の皿おしき・折敷はし・箸などが出土しています。

溝跡には、年代がわからないものもありますが、瀬戸焼きてんもくちやわんの天目茶碗や中国の北宋銭ほくそうせんが出土したものもあります。これらの遺物が出土した溝跡は、中世以降と考えられます。

御前田B遺跡の南側の泉町6丁目に鎮座する諏訪八幡神社は、中世城館跡たきじりじょうあとの滝尻城跡と考えられています。ここは磐城判官平政いわきはんがんだいらのまさうじ氏の居館跡きよかんあとと伝承されています。

御前田B遺跡で見つかった中世の溝跡や陶磁器などは、滝尻城跡に関連するものと考えられます。



掘立柱建物跡（御前田B遺跡）



四角い井戸枠（御前田B遺跡）



溝跡から出土した天目茶碗（御前田B遺跡）

これまでの発掘調査の主な成果

平成4年より始まった泉第三土地区画整理事業に伴う発掘調査によって、泉町滝尻地区周辺では古墳時代から平安時代にかけて大規模な集落が営まれていたことがわかってきました。ここでは、今までの主な発掘調査成果について見ていきます。

菅俣B遺跡・折返A遺跡

泉ショッピングセンターの西側にあり、古墳時代の集落跡が見つかりました。とくに、一辺10mを超す巨大な竪穴住居跡や棟持ち柱をもつ掘立柱建物跡が二重の柵で囲まれており、この地域一帯を支配した豪族の居館跡と考えられています。

竪穴住居跡からはたくさんの土器が出土しています。中には関西・東海・南関東地方の土器もあり、広域にわたって交流があったことがわかります。

神力前B遺跡

折返A遺跡の東側、泉町滝尻字神力前地内にあります。平成5～13年にかけてこれまで18回の発掘調査がおこなわれました。

古墳・奈良・平安時代にわたり50棟近い竪穴住居跡や大小の掘立柱建物跡が見つかり、広い範囲に古代の集落が営まれていたことがわかりました。

泉町C遺跡

滝尻交差点の西側、御前田A遺跡の北側にあたります。平成4～24年にかけて17回にわたる発掘調査がおこなわれました。

都市計画道路落・滝尻線部分では、古墳時代前期・後期の竪穴住居跡や近世の堀江などが見つかりました。古墳時代の集落が、泉駅西側から旧6号国道付近にまで広がっていたことがわかりました。



巨大な竪穴住居跡
(菅俣B遺跡・折返A遺跡 平成5年調査)



棟持ち柱を持つ掘立柱建物跡
(菅俣B遺跡・折返A遺跡 平成5年調査)